



2021年4月14日

報道関係者各位

慶應義塾

慶應義塾のアート&カルチャーを発信する ポータルサイト「Keio Object Hub」(v1.0) 公開

2021年4月19日(月)にグランド・オープンする「慶應義塾ミュージアム・コモンズ(KeMCo)」は、デジタル・アナログ融合プロジェクトの一環として、慶應義塾の文化コレクションを、学内で展開する展覧会等の文化活動と合わせて発信する、日英バイリンガルのウェブサイト「Keio Object Hub」(v1.0 Verdure)を2021年4月14日(水)に一般公開します。

URL: <https://objecthub.keio.ac.jp/>

1. 「Keio Object Hub」とは

慶應義塾には、160年を越える歴史の中で集積された多様な領域にわたる文化財コレクションがあります。これらのコレクションは、図書館、研究所にとどまらず、学部や一貫教育校など学内のさまざまな場所で収蔵・活用され、専門性を反映した豊かなコレクション・データベースが編まれてきました。今回、KeMCoでは、これらのデータベースを連携させ、展覧会や講演会など、学内で展開する文化関連活動と結びつけることによって、慶應義塾のアートとカルチャーを一望できるポータルサイト「Keio Object Hub」を開発しました。KeMCoのグランド・オープンに先駆けて、2021年4月14日(水)から初期公開版として、v1.0 Verdure(ヴァージャー)を一般公開します。

「Keio Object Hub」は、大学に蓄積された文化財(Object)と人々との出会い・交流の「Hub」、またデジタル空間を通じて、国内外のミュージアムや大学など、グローバルなネットワークに接続する「Hub」となることを狙い命名されました。

公開時点では約11,500件の文化財情報を掲載し、今後もコレクションを追加していきます。

2. 「Keio Object Hub」の特徴

文化財(Object)の基礎情報だけでなく、コレクションの解説を掲載し、デジタル・アーカイヴとしての機能の充実を図っています。また、関連作品へのリンクやAIサジェスト機能により、より多くの文化財との出会いを創出する工夫を施しています。

保有する画像やメタデータは、「Keio Object Hub」に限らず、様々なシステムやアプリケーションで活用できるように国際規格IIIF(※1)に対応しており、今後は動画や音声、3Dモデルといったコンテンツの拡充も予定されています。また、今夏からはLinked Open Data(※2)への対応やジャパンサーチ(日本が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる分野横断型統合ポータル)との連携も計画しています。

他にも、デジタル・アーカイヴへ掲載する過程の紹介、データの利活用につなげる取り組み、展覧会やイベントに関するデータも広くアーカイヴして公開していきます。

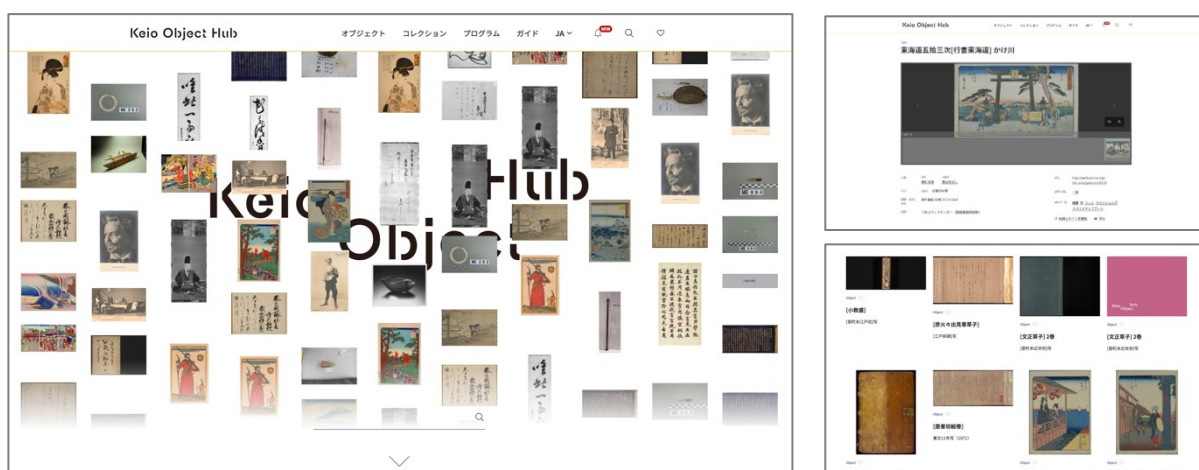
3. 「Keio Object Hub」の主なページと機能

トップページ:文化財のサムネイルがゆったりと流れてゆくトップページでは、コレクションの多様性を示すとともに、デジタル・アーカイヴではやや難しい、資料との偶然の出会いを作り出しています。サムネイルを選択すると、作品の詳細ページに移動します。

作品詳細ページ:文化財を収蔵・活用する専門部署のデータベースから同期された、資料の基礎情報や解説（メタデータ）、画像等のメディアを掲載しています。

検索ページ:キーワード検索とフィルタによる絞り込みを組み合わせ、シンプルで使いやすい検索ページと、研究者の利用にも耐える詳細検索機能を用意しました。また、キーワードを用いた資料の発見をサポートする試みとして「AI サジェスト」機能を搭載しています。

AI サジェスト: Keio Object Hub では、試験的な取り組みとして、AI（機械学習）を用いてキーワードを付与し、検索やフィルタリングに使用しています（AI サジェスト）。初期公開時は、Google Cloud の Vision API を利用して、各オブジェクトの画像を解析し、自動的にキーワードを付与しています。



4. 掲載コレクション

部門名	コレクション名	点数（概算）
ミュージアム・commons	センチュリー赤尾コレクション	約 2,300
福澤研究センター	「慶應義塾と戦争」アーカイブ	約 900
文学部 民族学考古学専攻	メラネシア民族資料データベース	約 2,000
メディアセンター	デジタルコレクション	約 6,000
美術品管理運用委員会	慶應義塾所蔵の美術作品	約 300

この他、アート・センター、文学部古文書室、斯道文庫など、さまざまな部署の収蔵する作品や研究資料が随時追加されていきます。

5.その他のページ

展覧会・イベント：「Keio Object Hub」では、慶應義塾で実施される文化・芸術関連の活動そのものが重要なアーカイブの対象であると考え、大学に蓄積された文化財（Object）に加えて、学内で実施された展覧会やイベントに関するデータも広くアーカイブして公開していきます。

Behind the hub：KeMCo内には、「KeMCo Studi/O」とよばれるデジタル・ファブリケーション機材が整備されたクリエイション・スタジオが備えられています。「Behind the hub」ではスタジオで実施されるデジタル化の様子など、オブジェクトがアーカイブとして集積されていく過程を紹介していきます。

Open Data Design：「Keio Object Hub」では、データのオープン化を進めるだけでなく、オープン・データを活用して「どのような体験がデザインできるのか？」という問いに立脚し、データの利活用にまつわる取り組みを、学生や教職員、外部の研究者を交えて推進していきます。「Open Data Design」では、そうした取り組みの成果を順次公開していきます。

<用語説明>

※1 IIIF (International Image Interoperability Framework [トリプル・アイ・エフ])
画像(データ)をはじめ、デジタルコンテンツを相互運用するための国際的な規格です。IIIFに準拠して公開されたデジタルコンテンツは、標準APIを活用することでアーカイブを横断した閲覧・共有が可能となります。

※2 Linked Open Data (リンクト・オープン・データ)
Linked Open Dataは、オープン・データに付随する各種属性情報、いわゆるメタデータをウェブ上で統一的に記述することで、データを相互に接続して「つなぐ」仕組み・技術のことを指します。コンテンツの機械可読性を高めるセマンティックウェブ技術に基づくことで、ただデータを公開するだけでなく、分散されている情報を統合的に扱うことを可能にします。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室(豊田)

TEL: 03-5427-1541 FAX: 03-5441-7640

Email: m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>